

むと東川に下降することになるので、少し戻ってから、博士沢左俣の下降に移るべく、右斜面をヤブこぎして尾根に出る。(記・ネ)

[タイム] つむじ倉橋(8:10)→遊行終了(10:15)
→尾根(10:30)

博士沢左俣

1994年8月27日

Lネ

南沢から尾根を越えて、博士沢左俣の下降点に移動する。ヤブこぎは、さほどでなかった。沢に降り立つといったんは水流が出てきたが、いつのまにか沢は消え、背丈ほどのササがかぶさり、ヤブこぎを強いられるようになった。

再度水流が出てくる。まわりはブナやミズナラの樹林帯で歩きやすく、快調に下降ゆく。や

がてこの沢で唯一の滝4m。左岸をクライミングダウンで降りる。

高度を下げてゆくと伐採地に出、沢は平坦となる。沢の中はブッシュがひどく、歩けない。しかたなく右岸の伐採地を歩き、登山口からのびている林道に出た。あとは車を置いてきたつむじ倉橋まで、林道を歩く。

(記・ネ)

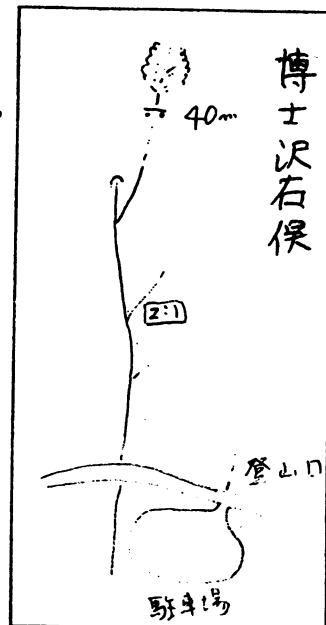
[タイム] 尾根(10:35)→源頭(10:40)→不動沢林道(11:30)

博士沢右俣

1994年7月16日

Lネ

博士山登山口駐車場の脇の沢である博士沢右俣に入



る。水が冷たい。右岸からの支沢を合わせて先に進む。しかしすぐに湧水地点に達し、水がなくなってしまった。その先は40mの滝。そしてその上はずっとスラブである。水はない。検討した結果、ここで遡行を中止し、引き返すことにする。

(記・)

[タイム] 登山口駐車場(7:20)→博士沢右俣出合(7:25)→遡行終了(8:20)

只見川中流域左岸の沢

塩沢川支流立安沢左俣

1994年7月30日
L系

天気晴。倉前沢の源頭から尾根に出るが、相変わらず風がなく、うだるような暑さである。できるだけ水分を補給し、立安沢の下降にかかる。

ブッシュをつかみながら急斜面を下降すると、ヤブこぎなしで、すぐに沢の源頭となる。沢床は湿っている程度で、細いが傾斜は急。15分ほど下降すると、最初の滝に会う。7mはあるだろうか。ザイルを出して、アップザイレンで降りる。支沢を合わせながら水量を増してゆくと、4mの滝。クライミングダウンで降りるが、左岸に擦り切れたロープが残っていた。山菜採りか釣人か。結構人が入っている沢のようである。

やがて右俣と合う。さして変化のない沢だったが、右俣と出合ってから様相が一変する。最初は20mはある柱状の滝。順層だが、クライミングダウンには高度感がありすぎる。中央部をアップザイレンで降りる。次の20mの滝は、右岸を少し懸垂してから降りる。滝は次から次へと出てくる。1~2mの小滝群の後、左にカーブする釜をもった5mの滝は、クライミングダウンで降りる。

6mの滝をアップザイレンで下降し、3mの滝を降り右にカーブすると、核心部もいよいよ終わりとなる。下降を始めて3時間ほどで塩沢川本流。林道はもう目の前だが、メジロの大群に襲われてひどい目に会う。メジロには今回の山行期